

自然科学のとびら

Newsletter of the Kanagawa Prefectural Museum of Natural History

Vol. 14, No. 1

神奈川県立生命の星・地球博物館

Mar., 2008



黄金色のマアジ

Trachurus japonicus (Temminck & Schlegel, 1844)

おうか
黄化個体, KPM-NI 19543, 体長 274 mm
右下: 通常の色彩のマアジ
崎山直夫 撮影

さきやまだお
崎山直夫 (新江ノ島水族館)
せのう ひろし
瀬能 宏 (学芸員)

いわし、さば、さんまとともに大衆魚として馴染みの深いマアジの黄化個体が見つかったので紹介します。

2007年6月24日、海老名市在住の釣り人 林 利秋氏が相模湾の二宮沖で釣り上げたマアジはどこか変わっていました。林氏はすぐさま新江ノ島水族館に連絡、生きたまま同館に引き取られて、展示にも供されました。この個体は眼は黒いのですが、他の部分には黒い色素がありません。通常さいがの個体(写真右)と比べて、まずさいが鰓蓋に見られる黒斑がないことが逆に目を引きま

す。その他、頭部周辺、背部、^{ひれ}鰭、^{びへい}尾柄部などに黒色素がほとんど見当たらず、まさに「黄金色のアジ」といった様相です。

マアジには一般に体高が高く黄色い“キアジ”と、体高が低く黒っぽい“クロアジ”が区別されていますが、今回のマアジは体高が低いので“クロアジ”が黄化したものかも知れません。黄化個体が見つかるのは非常に稀で、生まれても他個体より目立ってしまい、外敵に襲われやすく大きくは育たないと言われています。そういった意味ではかなり貴重な事例と考えられます。